

ダイちゃんの店&営大祭のお知らせ

農産物直売所「ダイちゃんの店」は、定期直売実習として、学生が消費者との対面販売を通じて農産物直売のノウハウを身につけることを目的に行っており、今年で16年目になります。

7月から11月までの計5回開催予定です。販売品目は、トマト、きゅうり、だいこん、ごぼう、ぶどう、りんごなどを予定しています。当校自慢の野菜や果物をぜひご賞味ください。

「営大祭」は、10月31日(土)、11月1日(日)に開催予定で、農畜産物販売も行います。

学生が丹精込めてつくった営農大学の農産物・畜産物を取り揃え、皆様のお越しをお待ちしています。

<ダイちゃんの店 開催日程>

回数	月 日	時 間	出店場所
第1回	7月 3日(金)	10:00~11:30 13:30~15:00	道の駅しちのへ 「七彩館」
第2回	9月 4日(金)		
第3回	9月18日(金)		
第4回	10月 2日(金)		
第5回	11月20日(金)		

※いずれの日も、商品がなくなり次第閉店いたします。



「ダイちゃんの店」での農産物販売



営大祭での農畜産物販売

校長



種市 順司

総務課



有馬 麻衣

教務研修課



齊藤 景子

農産園芸課



出町 友玲



助川 日菜

畜産課



神谷 祐子

新任職員 紹介

転出者

(校長) 松江 利英
(総務課) 三浦 夏帆
(教務研修課) 佐々木 直子
(農産園芸課) 松浦 孝幸
対馬 慶
(畜産課) 種市 弥枝

行事 予定

- 5月16日(土)・7月25日(土) オープンキャンパス
- 10月31日(土)・11月1日(日) 営大祭及びオープンキャンパス
- 12月22日(火)・23日(水) 校内プロジェクト発表会



AOMORI IDAI
営大Instagram
QRコード

ホームページ https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/einodai/top_page又は「ようこそ営大」で検索。

営大通信

令和8年度
青森県営農大学校入校式



第57号
令和8年5月1日

発行
青森県営農大学校興農会
会長 小川 広徳
青森県営農大学校後援会
会長 下久保 賢直
青森県上北郡七戸町字大沢48-8
TEL 0176-62-3111

校長挨拶



農場の果樹も芽吹き、新たな息吹を感じる季節となりました。

この度、営農大学の校長として参りました種市と申します。高い志を胸に抱いた新入生を迎え、営大生58名の令和8年度の学校生活が本格的にスタートし、喜びと期待を感じています。

本校は、地域農業の中核的担い手となり得る農業経営者や農業を支える多様な人材を養成する県内唯一の専修学校として、より実践的な農業の研修教育を行っています。

また、時代の変化や地域のニーズに応える学校運営に向けて、直近では、校内Wi-Fi環境を整備し、全学生にタブレット端末を配布するなど、デジタル技術を活用した実践的な学習の充実等を図ってきたほか、本年度は、増加傾向にある鳥獣被害の防止対策に対応したカリキュラムの拡充・強化等に取り組みます。

さて、昭和55年の開校以来、本校を巣立った数多くの卒業生は、先進農家や地域リーダーとして活躍しており、全国有数の食料供給力を誇る本県農業の主翼を担っているものと自負しています。学生の皆さんには、本校の伝統である「実践と理論が調和する農業教育」を学んだ先輩たちが、こうしてトップレベルの農業経営を展開していることに、誇りと自信を持ち、「未来の農業」を切り開いていくことを期待しています。

我々職員一同も、学生の挑戦をしっかりと支え、確かな知識と高度な技術の習得のもと、青森県農業を担う人財へと大きく成長できるよう、全力でサポートして参りますので、保護者並びに関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

(青森県営農大学校長 種市 順司)

新入生挨拶

果樹課程1年の木村泰我です。私の夢は将来、農業経営を通じて青森県を元気にすることです。そのために、学校で農業に関するさまざまな知識や技術を日々学び、青森県の農業をさらに発展させていける人材になれるよう頑張っていきます。また、新しい生活や環境に慣れ、仲間たちと協力し合いながら楽しく充実した学校生活を送りたいと思います。これからよろしくお願いします。

(果樹課程 木村 泰我)



ホームページ https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/einodai/top_page又は「ようこそ営大」で検索。

令和8年度入校式



新生代表の木村泰我さん



学生自治会長の三上蓮さん

令和8年4月8日、令和8年度青森県営農大学校入校式が行われ、小谷青森県副知事をはじめ、来賓、保護者等が見守る中、畑作園芸課程14名、果樹課程7名、畜産課程2名、計23名の入校生がこの日を迎えました。

種市校長は式辞の中で、「『実践』『創造』『友情』の校訓の下、「自ら学ぶ」という気概を持って勉学に励み、仲間と切磋琢磨し、青森県農業を担う人財へと大きく成長してくことを期待しています。」と激励しました。

入校生を代表し、畑作園芸課程1年の木村泰我さんが、「将来、青森県の農業をさらに発展させていける人材になるため、日々の勉学に励んでまいります。」と誓いの言葉を述べました。

また、在校生を代表して、学生自治会長である畑作園芸課程2年の三上蓮さんが、「勉強だけでなく、バーベキューやクリスマス会など、学生自治会が中心となって企画する楽しいイベントもたくさん予定しています。楽しみにしててください。」と歓迎しました。

令和8年度、営農大学校後援会長を務めさせていただく下久保です。

今年度は23名の新生を迎えることができました。一人ひとりと向き合える環境の中で、青森県農業の未来を担う学生たちが、専門知識や実践力を磨き、成長していけることを心から期待しています。

営農大学校は資格取得や実習の機会も豊富で、学生たちの可能性を広げる環境が整っています。後援会としては、学生と学校の活動をしっかり支えながら、皆様とともに温かく見守っていききたいと思います。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

後援会長挨拶



興農会会長を務めております、小川広徳です。平成14年度の就任以来、長きにわたり本会の運営に携わらせていただいております。

興農会とは、母校の発展を願い、卒業生相互の親睦と連携を深めることを目的とした同窓会組織です。

いわゆる「OB・OG会」として、在校生の皆様が充実した学校生活を送れるよう、支援活動を展開しております。

本年度は、農業の未来を担う23名の新生を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

今後も教職員の皆様や後援会と連携し、学生たちの挑戦を全力でバックアップしていきますので、皆様のご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

興農会長挨拶



令和8年度自治会長を務めることになりました畑作園芸課程の三上蓮です。

4月に新生を迎え、新体制での活動になりますが学校生活をより楽しく過ごしやすいものにするため、学生の意見を尊重しながら活動していきたいと思っています。

また行事の充実化や環境作りに力を入れ、学年・課程関係なくたくさん繋がりを大切にし誰もが笑顔で助け合える学校を目指します。

ご協力よろしくお願い致します。

自治会長挨拶



令和7年度のプロジェクト学習紹介

「ミニトマトにおける2本仕立て及び新品種の検討」

畑作園芸課程：葛西 陽奈子

ミニトマトの仕立て法の比較（1本仕立て、2本仕立て）及び品種比較（「サンチェリーピュアプラス」、「サンチェリーライズ」）を行った。その結果、2本仕立ては1本仕立てに比べて生産性を向上させつつ、糖度も高められる技術だと考えられた。「サンチェリーピュアプラス」は樹勢が落ち着いて管理しやすいほか、小玉傾向だが糖度が高い品種で、「サンチェリーライズ」は、「サンチェリーピュアプラス」より低糖度ではあるものの、大玉で収量は多く、収益性に優れた品種だった。



1本仕立て(左)と2本仕立て(右)の定植苗 生育調査の様子

畑作園芸課程

「アブシシン酸液剤の散布によるぶどう「ピオーネ」の果実品質向上」

果樹課程：阿部風花

本校のぶどう「ピオーネ」は、着色不良が問題となっていたため、着色向上を目的に、ぶどうの色素成分であるアントシアニンの生成を促進するアブシシン酸液剤（商品名：アブサップ液剤）を1果房当たり10ml散布した。

その結果、無散布と比較して着色は顕著に向上したことから、アブシシン酸液剤の散布は、着色向上に有効であると考えられた。

また、アントシアニン生成のため糖が優先して消費された影響か、無散布と比較して糖度が低かったが、200倍希釈での散布は、100倍希釈と比較して低下幅は小さかった。

このため、着色や糖度への影響を考慮すると、アブシシン酸液剤を1果房当たり10ml散布する場合、濃度は200倍希釈が望ましいと考えられた。



図 果実品質

注) 1 n=9~10
2 果皮色：赤・紫・黒色系カラーチャート（農林省果樹試験場）
0（緑）～6（赤紫）～12（黒）

「ホルスタイン種育成牛への調教方法の検討」

畜産課程：竹原真菜

乳牛は毎日朝夕2回搾乳を行うが、本校で飼養している初産牛は搾乳時に暴れ作業者に危険が及ぶほか、時間がかかる等作業効率の低下を招いている。そこで今回、牛と作業員の双方にとって快適な環境作りのため、ホルスタイン種育成牛の調教を行い、併せて県共進会への出品を目指した。

残念ながら蹄底潰瘍を発症したため共進会への出品は叶わなかったが、3月から約8か月間調教や手入れに取り組んだところ、牛との信頼関係が構築でき、牛が調教者の意図どおりに動いてくれるように変化した。今回は分娩がなかったため搾乳作業での実証はできなかったが、前拭き作業の比較では調教していない牛に比べ、作業効率や人の安全性に優れた結果となった。



調教していない牛



調教した牛

畜産課程